

## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年 8月25日

## テーマ「卒業生との連携—生涯を通じた

## “Mastery for Service”の実現を支援」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)常務理事  
福中 修二  
(法人部)

## 1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略（テーマ名）	統轄部署
8 学校経営	(9) 卒業生との連携—生涯を通じた“Mastery for Service”の実現を支援	法人部
<b>内容</b>		
<p>学院は、卒業生が「真に豊かな人生」を送るために、生涯を通じてスクールモットー“Mastery for Service”（奉仕のための練達）の実現を支援する。</p> <p>例えば、学院が直接、卒業生と継続的なコミュニケーションをとりながら、30-40代を中心とした働き盛りの世代には自らを磨くための学び（Mastery）として「リカレント型」の教育プログラムを提供し、シニア層にはボランティアなど「ライフワーク型」の社会貢献プログラムへの参加（Service）を促進するなど、各ライフステージにおける「学びの場」「自己実現の場」を提供する。</p> <p>そのために、同窓会本部や各同窓会とよき理解に基づいて連携し、学院が直接、20万人を超える卒業生とコミュニケーションを継続的にとるためのプラットフォームを構築する。関西学院コミュニティの最大の特長は、卒業生の母校愛の強さであり、そのネットワークの強さである。プラットフォーム構築を通じて、卒業生のネットワーク強化も狙う。</p> <p><b>【フェーズⅠの Total Review】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献も含む「K. G. ライフワークスクール」を西宮北口キャンパスなどを活用して実施している。</li> <li>・本学同窓生向けとなる「新月塾」「三日月塾」等は、東京丸の内キャンパスなどを活用して実施している。</li> <li>・卒業生向けと地域住民向けのプログラムを切り分けて、実施計画の内容を修正する必要がある。</li> <li>・同窓生とのさらなる連携強化のため、学院として新たなデジタルプラットフォームの構築を検討する必要がある。</li> </ul> <p><b>【フェーズⅡに向けた課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓生との連携強化のためのデジタルプラットフォームの構築</li> <li>・同窓生を活用したキャリア教育・支援</li> <li>・若手同窓のコミュニティ形成策の検討</li> </ul>		

## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年 8月25日

## テーマ「卒業生との連携—生涯を通じた

## “Mastery for Service”の実現を支援」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)常務理事  
福中 修二  
(法人部)

## 指標 1

指標	内容					
指標名	プラットフォームへの参加者数等					
定義・算式	プラットフォームとは、Web 経由でのサービス環境のみならず総会や会合等といった集いの場も含め、卒業生とのコミュニケーションのあり方や戦略と融合して検討が必要である。Web 経由でのサービス運用開始前年の 2022 年度までに明確にし、その時点で定義を定める。					
現状値 (指標設定時)	定義を定めていないため、現状値なし					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	定義を定めた時点で設定する					
実績値	2019 年度	—	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

## 指標 2

指標	内容					
指標名	母校推薦度					
定義・算式	【高等教育推進センター所管の学生調査 兄弟姉妹や親しい友人・後輩に、関西学院大学への受験や入学を進めますか】の肯定的回答のうち、(強くそう思う、そう思う)の割合					
現状値 (指標設定時)	74.1% (2017 年度) 73.39 % (2018 年度)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	80%					
実績値	2019 年度	調査項目廃止のため無	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

## 指標 3

指標	内容					
指標名						
定義・算式						
現状値 (指標設定時)						
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
実績値	2019 年度		2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

## 指標 4

指標	内容					
指標名						
定義・算式						
現状値 (指標設定時)						
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
実績値	2019 年度		2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

# I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年 8月25日

## テーマ「卒業生との連携—生涯を通じた

## “Mastery for Service”の実現を支援」

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	常務理事 福中 修二 (法人部)
-----------------------	------------------------

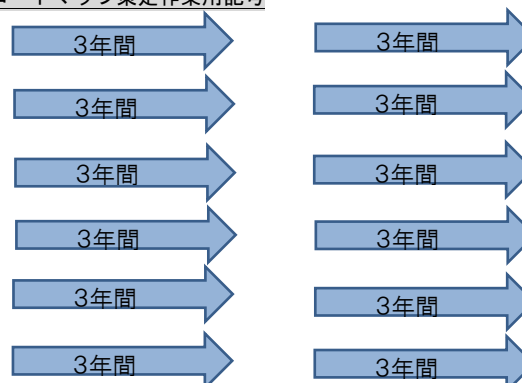
### 2. 実施計画ロードマップ

実施計画	担当部署		学部・研究科での取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① 卒業生の学びの提供	教務機構		必要なし	3年間								
② 生涯を通じて卒業生と繋がるネットワークの構築・活用	法人部	総合企画部	必要なし	3年間			3年間					
③			必要の有無を選択ください。									
④			必要の有無を選択ください。									
⑤			必要の有無を選択ください。									
⑥			必要の有無を選択ください。									
⑦			必要の有無を選択ください。									
⑧			必要の有無を選択ください。									
⑨			必要の有無を選択ください。									
⑩			必要の有無を選択ください。									
【備考欄】												

※想定される実施計画の例示

- ①30代、40代対象の学び直しの場の提供（リカレント型）
- ②シニア層卒業生対象の学びの提供
- ③シニア層卒業生対象の自己実現の場の提供（ライフワーク型）
- ④卒業生ネットワークの基盤構築

※ロードマップ策定作業用記号



## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年 8月25日

## テーマ「卒業生との連携—生涯を通じた

## “Mastery for Service”の実現を支援」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)常務理事  
福中 修二  
(法人部)

## 3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計（2019年度～2027年度）

## ◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

## ◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

## ◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

## 4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	<p>8-(9)-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「K. G. ライフワークスクール」の西宮北口キャンパスでの開講にあたり、2020年度前期・後期の講師内諾と2020年度前期の募集を開始することができた。</li> <li>既存プログラムのうち、社会的ニーズへの迅速な対応の必要性が高いプログラム（「東京丸の内講座」「三日月塾・三日月塾 in 大阪」「新月塾」）を業務移管することにより、各プログラムの機動力を向上させることができた。</li> <li>既存プログラムのうち、「三日月塾 in 大阪」については、塾生の質向上が喫緊の課題であり、ハンズオン教育プログラム室開講の「キャリアゼミ」を受講した卒業生との連携の必要性があると考えている。</li> </ul> <p>8-(9)-②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たなプラットフォーム（Web 経由でのサービス環境）の構築については、在学時から卒業後へ連動したサービス展開となるようなシステムであることが望ましいため、独立した卒業生向けのシステムではなく、在学生向け新ポータルシステムとの連携を想定して作業を進めることとした。</li> <li>ユースリユニオンについては、当初の予定どおり4か所（東京・大阪・名古屋・福岡）で開催することができ概ね目標としていた参加者を集めることができた。今後は、参加者との継続した繋がりを持ち方や戦略的な開催地の決定等が課題である。</li> </ul>
2020年度	
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2027年度	